

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことがありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会 ニュースレター

第179号 (2025年2月号)

いづみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
<http://izumichurch.holy.jp/>
発行人 宮地 宏一



年明け早々、私のスマホにアメリカの見知らぬ番号から着信がありました。普段だったら絶対取らないのですが、年末年始の忙しさで疲れていた私は、ついつい出てしまったのです。そうすると「宮地さんですか」「はい」「あなたの名前が犯罪者リストに載っています」「はい？」そして置みかけるように「今すぐ身分証を持って佐賀県警に行けますか」と。小心者の私は正直ドキドキ。でも元気よく「はい、行けます！」と答えた途端、電話が切れたのです。今、流行りの詐欺の電話でした。みなさまもお気を付けてください！

今月も神さまからの恵みが、お一人お一人の上に豊かに注がれますように。



(2025.02.01)



アップアップの人生から

先日、喉の痛みがひどかったので、久しぶりに病院に行きました。私の見立てでは、単なる風邪で喉の炎症を抑える薬を処方してもらえたなら良いかなぐらいに考えていたのです。ところが私の喉を一度見た先生から「ご家族に似たような症状の人はいますか」と聞かれ、「はい、妻と娘が」と答えると、もう一度私の喉をのぞき込み、はっきり「これは〇〇ですね」と診断されました。そして処方された薬を飲むと、1日で痛みが治まったのです。改めて専門家としてのすごさを実感したのと同時に、自分の身体のことなのに、良く分かっていない現実を突きつけられました。

自分のことは自分が一番良く知っている。以前はそう思っていました。けれど年齢を重ねるにつれ、自分が何者なのかが分からなくなってきたのです。本当の自分は、どの自分なのか。自分でも理解できない自分の言動。どうすることもできない感情。そんな自分と向き合いながら思い悩む私。平常心を装い、「私は全然大丈夫ですよ」っていう顔をしていても、全然大丈夫ではない自分を発見します。



こんなことを書くと、「やばいですね。精神的に相当疲れている」と思われるかもしれません。でも私たちは多かれ少なかれ、このようなやばさを抱え、もがきながら生きているような気がするのです。少し前の朝日新聞の「ひととき」欄に次のような投稿があり、ずっと心に引っかかっていました。

27歳の娘は1年以上前から市販のせき止め薬を飲んでオーバードーズを毎日繰り返している。4年前から不安障害とパニック障害を患っており、精神科にも通院しているが、やめられない。…

彼女は楽しくてオーバードーズをしているわけではない。社会に適応できない、アルバイトも続かない。人との付き合い方も分からない。孤独で寂しくてオーバードーズしなければ外の世界に出ていけない。誰かに彼女の気持ちを聞いてほしい。私の言葉では助けにならない。誰かが彼女の心を救ってくれる人はいないだろうか。

【朝日新聞 2024.9.20「ひととき」より】





「誰か彼女の心を救ってくれる人はいないだろうか」このお母さんの切実な叫びに、心が痛みました。娘さんが苦しむ姿を見るのは親として、本当に辛かつたでしょう。彼女が回復するためだったら何でもしてあげたい、そう思って動き回られたはずです。けれど何の解決も与えられません。

私も親となって、親というのはなんと無力だろうかと日々痛感しているのです。子どもが小さいうちは、親としての役割を十分果たせているような気になります。常に自分の周りに子どもがいますし、大きな問題が起こることとは稀だからです。けれど子どもたちが成長するにつれて、すべてに関わり、助けることができなくなります。私たちの目の届かないところで起こることが多くなり、問題も複雑になるからです。

そんな中で私が親として子どもたちにしてあげられることは、先ほどのお母さんのように一緒に叫ぶことだと教えられたのです。「誰か彼女の心を救ってくれる人はいないだろうか」という叫びは、実に娘さんの叫びでもあります。彼女は必死で生きようしながら、どう生きたらよいかが分からなかつたのです。この彼女の声にならない心の叫びを、お母さんが一緒に叫んでくれた。これがどれほど娘さん的心を力づけたことでしょうか。

それにしても生きるって、そんなに簡単ではないですね。子どもたちを見ていても、様々な生きづらさを抱えながら毎日を何とか生きています。「がんばって生きよう」という励ましだけでは、どうにもならない世界がそこにあるのです。



- 礼拝 毎週日曜日 10:30~12:00
- イズミン・キッズ 毎週日曜日 9:30~10:20
- おやこ de えほん 毎週水曜日 10:30~12:00

* どなたでも歓迎いたします！すべて事前申込みなしで参加いただけます。

上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。

寂しさ・空しさ・生きづらさを感じ「誰か私の心を救ってくれないだろうか」と心の中で叫んでいる方は、少なくありません。一方で「自分の苦しみを理解して、自分を救ってくれる人なんかいない。自分を救えるのは自分だけだ」とあきらめている方も多いような気がするのです。確かに自分のすべてを周りの人に理解してもらうのは無理ですね。だから結局「頼りになるのは自分だけ」となってしまうのも分かります。けれどおぼれている人が自分を自分で救えないのと同じように、私たちは自分を自分で救うことができないのです。「私がおぼれているだって？冗談じゃない！」と怒られるかもしれません。



でも日常生活でアップアップすることはないでしょうか。私は結構アップアップします。寂しさ・空しさ・生きづらさを覚え、辛くなるのです。そうなるのは大抵、自分に頼り、自分で自分を救おうと頑張っているときです。その頑張りが効かなくなり、限界に達すると、私は我に返らされます。そして「イエスさま、私は高慢にも自分で自分を救おうとしていました。どうか私を救ってください」という祈りが内から湧いてくるのです。

私たちの心も身体も救ってくださるお方はイエスさましかおられません。もしご自分がアップアップしていることに気づかれたら、ぜひ私たちの心を救い、すべてをご存じのイエスさまに叫んでください。必ずお一人お一人に必要な助けをイエスさまが与え、救ってくださると信じます。



主(神さま)の御名を呼び求める者は
みな救われる。〔聖書〕

